

第4章 施策の展開

※評価…4:計画を実施(見込以上/例年以上) 3:計画を実施(見込並/例年並) 2:計画を実施(見込未満/例年未満) 1:計画不実施/縮小

基本 目標	施策	N O	取組み	内容	令和7年度実績	評価	評価理由	現状分析、課題	令和8年度取組内容	担当課
2	1	4	学習支援事業駒来塾	家庭環境により家で学習する機会がない、経済的理由により学習塾に通えないなど、学習意欲があっても学力の定着が進んでいない中学生を対象に教員OBや教員を志望する大学生など地域の協力を得て、一定レベルの学力が定着できるように学習支援活動を行います。	令和7年度より応時中学校の生徒を対象に、新たに南部地区へ開設した。毎週水曜日、木曜日に市内5教室で開催し、水曜日は年間45回、木曜日は年間48回開催し、合わせて107人の参加があった。 ・夏の追加募集期間に中学生を対象とした見学会を実施したところ12人の参加があり、追加入塾した。また、駒来塾を必要とする生徒が中学に進学後、すぐに入塾できるよう、春に小学6年生を対象とした見学会を実施し、9名の参加があった。 (令和6年度比:103%、令和6年度実績:104名)	4	<u>小牧地区への入塾希望が多いため、新たに南部地区を開設し、希望する生徒が入塾できる体制を整えたため。また、夏休み期間中の追加募集にあわせて見学会を実施したこともあり、前年度と同程度の生徒が入塾しており、計画通り実施できたため。</u>	参加生徒が増加傾向にあり、また、個々の学習の定着状況が異なり、個別配慮が必要な生徒もいるため、支援人材の安定的な確保が必要である。特に、参加生徒に近い年代の大学生等の参加を増やしたい。	引き続き入塾を希望する生徒の募集をしながら、教員を目指す大学生などの学習サポーターを確保するため、大学へのチラシ配布、広報での周知等により、積極的に声かけを行う。	こども政策課
5	1	3	離乳食教室	離乳食教室を開催し、各時期に応じた適切な離乳ができるよう指導・助言を行います。	【前期ごっくん教室】 ・参加者数:96人(令和6年度比:81%、令和6年度実績:118人) 【後期かみかみ教室】 ・参加者数:48人(令和6年度比:77%、令和6年度実績:62名)	3	<u>前期、後期教室ともに参加者が減少しているものの、教室終了後、子育てに係る相談がある場合は、地区担当保健師や歯科衛生士につなぐなどして、離乳食教室という機会を捉え、支援ができていたため。</u>	産院や歯科医、子育て世代包括支援センター、児童館などでの離乳食教室の充実。企業主体の場合、試食やお土産付きなどメリットがある。調理実習をしてほしい、試食したいなどの声がある。	フォローケースなど、他の情報をうまくキャッチできない保護者などもあるため、引き続き実施していく。	保健センター

第4章 施策の展開

※評価…4:計画を実施(見込以上/例年以上) 3:計画を実施(見込並/例年並) 2:計画を実施(見込未満/例年未満) 1:計画不実施/縮小

基本 目標	施策	N O	取組み	内容	令和7年度実績	評価	評価理由	現状分析、課題	令和8年度取組内容	担当課
5	2	6	【拡充】乳幼児健康診査・歯科健康診査	これまでの健診に加え、1か月児健診(追加拡充)、5歳児健診(新規事業)も実施し、出産後から就学期までの切れ目ない支援ができるよう努めます。	乳幼児健診では、乳幼児の成長発達を保護者と確認し、育児支援の視点を重視した健康診査を実施。 【実施回数】 ・4か月児健診 36回 ・1歳6か月児健診 36回 ・2歳3か月児歯科健診 24回 ・3歳児健診 36回 ・5歳児健診 36回	4	健診の機会を疾病の早期発見・早期治療の場だけでなく、育児支援を重視した健診の場として実施。また、令和5年のこども家庭庁からの通知を受け、令和7年5月より5歳児健診を開始し、愛知県内でもいち早く体制を整えることができたため。	保護者の就労や、長期入院児、医療的ケア児等の理由から受診率は高止まりの状況となっている。また社会環境、生活環境などの影響から、口腔機能未発達な児が増えている。	R8年度から口腔機能発達検査36回を追加(5歳児健診で実施)引き続き、育児支援の視点を重視した健康診査を継続する。	保健センター
					1か月児健診を医療機関にて個別健診で実施 ※保健センターが、健診の実施回数を計上するとのことで、形を合わせます。	3	必要な時期に健診を実施し、切れ目のない支援ができています。	健診を早期に受診することで、必要な医療へつながったり、医療機関から自治体への連携ができています。	引き続き、健診の受診ができるよう、体制を維持していく。	子育て世代包括支援センター